

# 研究計画

## 1 研究主題

ことばを大切に学び合う楽しさを実感する学習活動の充実  
～自ら学び、みんなで伝え合い、考えを深める～

## 2 主題設定の理由

本校は、平成23年度から算数科を中心に授業改善に取り組んできた。今までの研究では、「子ども同士が意見をつなぎ学び合う授業」をめざしてきた。しかし、授業の中では、自分の意見をうまく相手に伝えられなかったり、相手の考えを理解したうえで自分の考えをまとめることができなかったりと、なかなか子ども達が「意見をつなぎ、学び合う授業」ができていないことが課題となっている。

そこで、新学習指導要領の実施、及び10年目を迎える本年度からは、算数科だけでなく、全ての教科で「子ども達が意見をつなぎ学び合う授業展開」ができるような授業を研究することとした。昨年度までの「書いて考える授業」や「聴いてつなげる授業」に、「多様な考えがもてる授業」「深い学びにつながる授業」で子どもの意見を中心に展開できる授業を通して思考力・判断力・表現力を高める取組を進めていく。

研究主題については、昨年度の研究主題『「わかる」「できる」「のびる」喜びを味わわせる学習活動の充実』への取組を引き続き大切にし、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、更なる授業改善を図る。そこで、本年度は「ことばを大切に学び合う楽しさを実感する学習活動の充実」とし、基礎的・基本的な知識や技能を活用して、自分の考えや意見を伝え合い、問題を解決する能力を育成していきたい。「聴いてつなげる授業」という点では、教師主導になりがちな現状を、言語活動を大切にし、子ども達が自分の考えを発言したり、その意見をつなぎ学び合ったりする姿を引き出せるよう、それぞれの教科の授業で実践し研究する。

そこで、サブテーマを【自ら学び、みんなで伝え合い、考えを深める】に設定した。子ども達が学ぶ楽しさを実感するために、学習の課題設定を工夫し、子ども達が見通しをもって自分の考えをもつこと、自分と他者の考えを比べ伝え合いながら学び合うことが大切であると考えた。1時間の授業のねらいを子どもに明確に示し、個人思考の場(自力解決)では、自分の考えを書いたり、深め合う場(練り合い)では、指導者と子ども、子ども同士が対話し、一人一人の思考を深めたりする。そこからみんなで学び合う授業を、めざす授業像とし、子ども達が興味を持って考え、自分の考えを発言し合う時間の充実を図っていきたくと考えている。

そのためには、子ども同士が話しやすい雰囲気をつくり、自分と違った意見なども、子ども同士で認め合うなど、温かな学級づくりを日頃から意識して取り組むことが大切である。子ども達の学習に向かう姿勢を高めるために、みんなで学び解決する授業の展開ができるよう、「みんなで学習するのが楽しい」と感じられる学級づくり、「考えたい」「伝えたい」など、主体的に取り組む子ども達となれるよう、指導者もことばを大切にし、子どもの思考を引き出したり、つないだり、受け止めて価値づけたりして、学び合う授業へ意識を高めていく。また、子ども達同士がお互いの対話を通して深い学び合いができるような学習形態の工夫(ペア学習・グループ学習など)を継続して行っていく。そのために、下記の研究内容をしっかり受け止め取り組んでいきたい。

## 3 研究内容

### (1) 取組の充実

- ・考えをもち、書いたり聴いたりして、子ども達同士でつなげる授業
- ・習得・活用・探究という学びの過程を大切に授業

### (2) 学び合いの場と思考力・判断力・表現力を育てる手立ての工夫

#### 【学び合いの前提として】

- ・学び合いの素地をつくる(自他を認め合う学級作りと「求める授業像」)
- ・ことばを大切に授業づくり(話す・聴く・つなげる)
- ・子どもが追究したくなる課題設定の工夫(興味・関心を引く課題・多様な考えを引き出せる課題など)
- ・子どもたちの習得や活用につながるノート指導の工夫(何を学んだのか・ノートを見直すことで学習内容を思い出すことができる・思考の過程がわかるノートづくり)

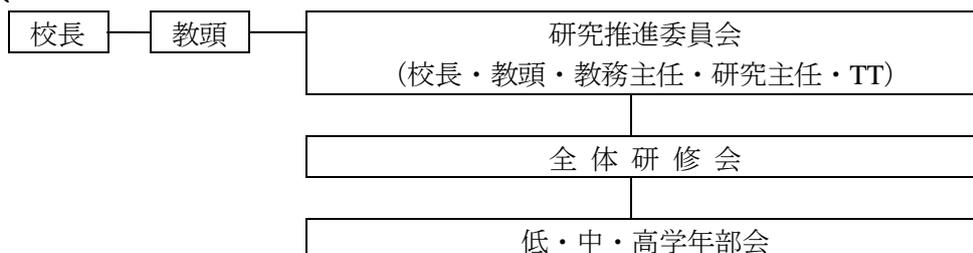
#### 【学び合いを活性化するために】

- ・自力解決時における個別指導の工夫
- ・問題解決型（引き出す・学び合う・考えを深める）
- ・子ども同士がつながり授業、学習形態の工夫（個人・ペア・グループ学習）
- ・本時のねらいにせまる考えの取り上げ方の工夫
- ・考える視点を明確にする発問や指示を行う
- ・教師が適切な場が出る（誤答を含めた多様な考えの出し方の工夫）

【学びを確かめるために】

- ・1時間での学びの成果が実感できるたしかめ問題の工夫
- ・評価テストの誤答分析による指導方法の改善
- ・学習指導と家庭学習のリンク（自主勉強の充実）

#### 4 研究組織



#### 5 研究方法

##### (1) 年間計画

月	内 容	月	内 容
4	教育計画の立案 自主勉強の充実（2年～6年） 全体研修（研究方法の確認）	10	自主勉強に向けて（1年生） 県学習到達度調査の実施（4～6年）
5	全体研修（三部会からの提案）	11	学習アンケート調査および分析 研究授業（2年・3年）新採研 研究授業（4年）
6	研究授業（5年） 学習アンケート調査および分析	12	研究授業（1年）
7	研究授業（理科専科） 公開授業（音楽・家庭専科）	1	研究授業（おおぞらA・B） CRTの実施（全学年） 県学習到達度調査の分析（4～6年） 全体研修（反省と課題）
8	研究会・講習会に参加 夏季研修（三部会からの中間報告） 夏期研修（発達障害理解、九小の子と取組報告）	2	全体研修（学力分析・研究の成果と課題） CRTの結果からの学力補充 評価テスト（5年生）
9	先進校視察 研究授業（6年）	3	研修（三部会からの報告・成果と課題） 研修のまとめ作成

##### (2) 研修方法

- ①全学年が研究授業を実施するとともに、実践交流を行う。
- ②研究会や講習会に積極的に参加する。
- ③先進校視察等を実施し、全職員に視察時の報告を行い優れた実践に学ぶ。

##### (3) 研修日

- ①原則として各週水曜日の午後、全校的な研修日をとる。
- ②部会別研究会と全体研修会を関連づけて行う。
- ③研究の手だてについては、研究推進委員会で企画する。